

## 令和5年度第1回総合教育会議 会議録

1 日 時 令和5年6月2日（金）午後3時00分～午後4時20分

2 場 所 三島市役所中央町別館4階 第1会議室

3 出席者

（構成員）

豊岡市長、小塚教育長、佐藤委員、安藤委員、草間委員、飯島委員

（説明者他）

鈴木教育推進部長、鈴木教育推進部主任、杉山教育総務課長、中村学校教育課長、若林生涯学習課長、渡辺図書館長、辻文化財課長、飯田企画戦略部長

（書記）

高梨教育総務課総務係長、芦川教育総務課主事

4 傍聴人の数 1人

5 協議または報告に係る事項

（1）学校と地域の連携・協働について ～地域学校協働本部事業～

（2）リスクマネジメント～子どもたちの命を守る～

6 発言者及びその要旨

（1）開会

（2）市長あいさつ

本日は大変足元の悪い中、令和5年度第1回総合教育会議にご出席賜りありがとうございます。「総合教育会議」は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成27年度から設置されたものでございまして、今回も、活発な議論をしていただけたら幸いです。

近年、学校を取り巻く環境は複雑化、多様化し、さらに地域社会におけるつながりの希薄化等による地域の教育力の低下といった社会的課題が顕在化しています。その課題解決を目指すとともに「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた基盤として、地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくため、「地域学校協働本部事業」を進めています。

そこで令和5年度第1回目の総合教育会議は、「学校と地域の連携・協働について～地域学校協働本部事業～」をテーマといたしました。今回は、当市が他市町に先駆

けて当該事業を進めてきた経緯や前身の「学校支援地域本部」から改組されてからの課題、そしてコミュニティ・スクールとの連携状況及びこれからの方向性について検証していくために皆様と意見交換を行いたいと思います。また、例年同様、リスクマネジメントとして、いじめの調査結果についてもご報告申し上げます。

委員の皆様方には、忌憚ないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

### (3) 議題 1

#### 学校と地域の連携・協働について ～地域学校協働本部事業～

(豊岡市長)

それでは、本日の議題に入ります。本日1つめの議題は、「学校と地域の連携・協働について ～地域学校協働本部事業～」でございます。

子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化するなか、学校による積極的な情報発信や、子ども・保護者・地域の声に真摯に向き合い、学校運営を改善していくことが求められています。多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、子どもたちの学びを支援する「地域学校協働本部」の役割は今後より重要なものになると考えます。地域学校協働本部事業のこれまでの経過、その役割、直面する課題について説明させていただき、委員の皆様にご意見を伺いたいと思います。では、事務局から説明をお願いします。

(上田生涯学習課指導主事)

上田生涯学習課指導主事から、以下の項目に関する説明があった。

【地域学校協働本部事業の経過】

【学校と地域の連携について】

【直面する課題について】

(安藤委員)

学習指導要領にある「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」というものがどういうものか具体的に伺いたい。コミュニティ・スクールの運営について、地域の方の意見がどの程度反映されているか伺いたい。

(上田生涯学習課指導主事)

全部の学校教育の様々な授業や行事について、地域とどのように連携するか、授業に教員以外の大人からの学びとどのように取り入れる機会をつくる等を年間計画に取り入れるという形で進めている。

(安藤委員)

それは公表されているのか。

(上田生涯学習課指導主事)

学校ブログ等に各校の取組や目指すところを掲載している。

コミュニティ・スクールの件については、昨年度の例になるが、ある中学校でコロナ禍の影響により学年別に運動会を行っていたが、学校としては全学年で実施したいという思いがあり、どうすればよいか迷いが学校にはあった。学校運営協議会で地域の方や保護者と協議し、全学年で実施、ただし保護者の参加は各家庭1名までという結果になった。そのような地域の方に助けていただいている事例は各学校にある。

(安藤委員)

地域の方と連携して学校運営していく取組は素晴らしいと思った。

(飯島委員)

団塊ジュニア世代の子育てが一段落する時期となってくる。この世代を活動に取り込んでいくことが、地域と学校の連携・協働を今後も継続していくために必要となってくると感じた。

具体例に出ていた職場体験が素晴らしいと思っている。自分の係る業界では、新しく入ってくる人にアンケートを取ると、半分くらいが職場体験をとおして、その業界を志している。業界の発展にとっても職場体験は良い仕組みだと思う。会社側も積極的に職場体験に協力する必要がある。学校側では職場体験の受け入れ先を探すことが中々難しい場合もあると思うので、地域学校協働本部の役割は大きい。

(豊岡市長)

先日高専の校長先生から聞いた話によると、物作り分野の志望者が減っているとのこと。物作りに関係する企業等にとっては大きな問題。人材確保のためにも職業体験は重要。

(草間委員)

子どもたちの体験はとても重要。これからも子どもたちに体験をさせていくことが大事。読み聞かせ活動は、子どもたちにとって心身ともに色々な感情が芽生え、心のケアにもつながる。そういったボランティア活動は地域の方々のご協力のもと今後も継続していただきたい。

農兵節に関する取組(学校で児童生徒だけでなく地域の方にも一緒に農兵節に参加していただく取組)について、農兵節やシャギリなど地域の伝統文化への関心に地域間で

差があると聞いている。農兵節などの文化の保存のためにも、そういった取組を市全体で積極的に行っていただきたい。

(豊岡市長)

ニュースによると、文楽の研修生の応募者がゼロだったとのこと。伝統芸能も困難な状況を迎えている。京都にある小学校では地域学校協働本部を通じて、地域の方が子どもたちに伝統・文化を伝える機会を設けているとのこと。体験するからこそ、その道に進みたいという子どもが出てくる。日本の伝統文化を守ることは、グローバルな観点からも重要。農兵節は地域のアイデンティティの形成のためにも重要。地域の方と一緒に楽しみながら取り組んでいただきたい。

(佐藤委員)

三島に来ていつも思うことは、文化・歴史・伝統が守られているということ、まちの表情・人々の暮らしが豊かだなと感じる。市民文化会館に行けば様々な催しがあり、まちにはおいしい食べ物があり、楽寿園で豊かな自然に触れられ、勉強しようと思えば生涯学習センターがある。暮らしの中で求められる様々なものを三島は備えている。まちには花があって歩いていて楽しく、愛着を感じる。美意識・文化を体感する、幸福感を味わうという意味で三島はモデルになると感じる。

しかしながら、後継者不足、ボランティア不足、ノウハウの継承、少子高齢化の解決を目指さないと文化・まちの魅力・活気は薄れていく。市民のみなさまのお力をお借りして、地域と連携協働して今後も取り組んでいただきたい。

(豊岡市長)

後継者問題のことについて、PTAの皆様には地域学校協働本部及びコミュニティ・スクールのことをよくご理解いただくことが必要。PTA活動の参加者から、地域学校協働本部等の主役になって活躍していただける人を確保することがとても大事。PTA活動が終わった後も、地域の中で中心的な役割を担っていただけるよう学校からも伝えていただければ幸い。

(小塚教育長)

幅広い視点から様々な意見をいただき、大変参考になった。三島は市民の皆様が積極的にまちづくりに参加してくれている。職場体験などでの企業の皆様の協力、地域の皆様の協力がいただけるのは、市民の皆様がまちづくりに親身になって取り組んでいる証し。地域学校協働本部事業については学校・地域・子どもたち互いにメリットのある取組。地域と連携することで、学校では経験できない体験の多さを広めていきたい。

後継者問題については、PTAの皆様のお力をつなげていくことが大事。グローバルな

視点だけでなくグローバルな視点（地域性を考慮しつつ、国際的な視点を持つこと）も取り入れながら、三島の良さを感じられる子どもたちを育てていくことが必要。

（豊岡市長）

自主防災訓練に中学生が参加してくれた。コミュニティ連絡会をとおして、地域・学校協力のもと実施できた。大きな災害があったとき中学生の力は大きな助けとなる。地域の皆さんにご協力いただきながら、防災のことを学んで欲しい。

（４）議題２

### リスクマネジメント～子どもの命を守る～

（中村学校教育課長）

以下の事項について説明をした。

【いじめの認知件数】

【いじめの現在の状況】

【いじめの発見のきっかけ（件数）】

【いじめの態様（件数）】

【令和４年度いじめ定期報告（第４期）の傾向】

（豊岡市長）

当会議の設置目的の一つが、迅速な危機管理体制を構築すること。重大事態はいきなり発生するものではなく、小さなトラブルの積み重ねで起こる。今の説明について委員の皆様からの質疑をお願いしたい。

（安藤委員）

三島は昔から小さいいじめでも発見し、解消することに重きを置いている。いじめの発生率が高く見えるが、それは教職員の目が行き届いているということ。いじめ発見のきっかけを見て、本人からの訴えの部分が多くなっていることは、本人が訴えやすい環境となっているためであり、いじめの解消率を高めるために、主に取り組む主体はどこになるのか、どういった活動があるのか教えていただきたい。

（中村学校教育課長）

いじめの解消の判断については、学校の教員が主体となって、被害児童の状況を踏まえながら判断している。学校ごとに児童会生徒会でいじめゼロ宣言を確認しあっている。言葉のかけ方による影響を子どもたち同士で積極的に発信する取組を行っている。児童会生徒会活動は未然防止のための取組であり、発見したいじめの解消は大人の目で確認している。

（飯島委員）

いじめの発見件数が増えていることは、目が行き届いているという意味で良いことと理解している。件数増加に影響を与えるような調査方法の変更はあるか。

(中村学校教育課長)

学校によってはアンケートの回数を増やしている。また一人一台端末から相談できる心の相談フォームを取り入れている。フォームからは昨年度二十数件の相談があった。色々な形で子どもたちが訴えられる状況を整備できている。

(飯島委員)

いじめの当事者ではなく、他の生徒からの報告が増えていることも良いこと。良い傾向だと感じている。現場では大変だと思うが、引き続き早期発見に努めていただきたい。

(草間委員)

コロナ禍で人の表情が見えにくく、心の中までも見づらい状況だった。そのような状況下でも先生方が一人一人を見つめて把握していることに安心した。小さなことが大きなことに繋がってしまうことは多々あると思う。心に傷を負ってしまうこともあるので、適切なケアが必要、カウンセラーの方々の協力が大事。

学級会やホームルーム等でいじめについて話し合う機会等は設けられているのか。

(中村学校教育課長)

学級会等でも行っている。それに加えて道徳の授業で、子どもたち同士で意見を交わす機会を設けている。例えば小学校低学年の例だと、優しいふわふわ言葉はどのような言葉か、自分が言われて嫌なチクチク言葉はどのような言葉か子どもたちで話し合い、それを教室に掲示していつでも見られるようにするといった取組を行っている。

(草間委員)

相手の立場に立って、思いやりの気持ちを互いに持つことが重要。そのような理解を促す取組を今後も行っていたきたい。

(佐藤委員)

心の中はなかなか見えないので、早期発見が非常に大事。データを見ると小学校から中学生になるといじめの件数が少なくなっている。なぜかと考えながら報告を聞いていた。小学生は自我の意識が未発達だが、中学生になるとかなり自我が発達して、自分を抑え相手を思いやる心が育っているのかと思う。相手を思いやることの教育を担当の先生だけではなく一丸となって取り組むことが大事。いじめはなかなかなくなるが、大人が目配り、子どもたちの正常な精神の発達を促していくことが必要。

質問だが、なぜ中学生になるといじめの件数が減るのか。

(中村学校教育課長)

発達段階の違いというものもあるが、小さいころからの未然防止の取組の積み重ねにより、いじめをしてはいけないという気持ちが育っている結果が現れているかと思う。

(小塚教育長)

様々な視点からのご意見ありがとうございました。一人一台端末が子どもたちの健康状態や悩みの把握に役立っている。対面では言えなくても、端末を介せば言えるという子どもはたくさんいる。いじめを認識した後に3か月程追跡して子どもたちの様子を把握することで、見届けようという教員の意識も育つ。子どもたちの命を守るために大切な取組なので、今回いただいたご意見をもとに、一丸となって取り組んでいく。

(豊岡市長)

一人一台端末を使って訴えてくる人が少ないように感じる。

(中村学校教育課長)

端末だけではなく、年 2-3 回、教育相談という形で担任と 1 対 1 で、日常会話的なものを含めて子どもたちと話す機会を設けている学校もある。色々な機会で子どもたちが訴えられる状況を作っている。どのような状況でも訴えられる環境を作ることが重要。

(豊岡市長)

いじめについて、子どもたちを取り巻く状況は刻々と変化している。今後はいじめの芽の早期発見に努めるとともに、丁寧に対応していくことが大変重要。委員の皆様におかれましても、お気づきの点があれば、今後ともご指導いただけると幸い。

(5) その他

(豊岡市長)

本日の議題は以上となるが、その他何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(豊岡市長)

以上をもちまして、令和 5 年度第 1 回総合教育会議を閉会します。活発な議論をいただき、ありがとうございました。